

ちえすなっとミニレター

IGAGURI

イ ガ グ リ

Vol. ③
2021.5.1





お店の片隅に「山の本コーナー」があります。登山関連の本を中心に小説や漫画が並んでいます。僕の趣味全開です。

絵本専門と言っておきながら、本屋さんを始めたのをいい事に自分が欲しかった山関連の本を集めに集めて並べています。

児童書が並んでいるすぐ横が山の本コーナーなのですが、ファンタジーな世界のすぐ横に「山岳装備大全」だの「山の遭難」だの猛々しいタイトルの本が並んでいます。やさしい気持ちで絵本や児童書をのんびりと眺めている方々の目に突然飛び込んでくるそのタイトル。

「えっ!？」な顔をされる方が時々おられます。そりゃそうです。

絵本屋なのに山の本を置く事は悩みました。素通りされるだけのコーナーにならないか不安でしたが、足を止めてくれてじっくり見てくれる方もそこそこおられます。これはなかなか売れないだろうなと思っていた本が速攻で売れる事もあります。選びに選んだ本だけに売れた時の嬉しさはなかなかのものです。

このIGAGURIや山の本コーナーもそうですが、趣味の延長みたいな事をやれるのも自分達の店だからできるのだと思います。自分たちで何かを始める、それ自体がお店の個性になるのだと思います。たとえ失敗したとて「お?じゃあ次はこれをやってみますか?」とフットワーク軽く次に行けるのも良い所です。

調子に乗らない程度にいろんな事にチャレンジして、もっと面白みのあるお店を作っていけたらなと思います。

ちえすなっとの基本は絵本の古本屋さんでカフェであり、なによりお母さん達にゆっくりしてもらいたい場所です。この思いはずっと変わらないです。

そのゆっくりしてもらおう場に飽きが来ないように何かをやり続けて行きたいと思います。今は小さなお子さんが大きくなり、お店の前を通り過ぎる時に「昔、あんなことやってたなー」なんて言ってもらえたら最高です。

そんな思いの込めた山の本コーナーでもあります。

油断しようものなら縮小の憂き目に遭いそうな山の本コーナー。

そんな本を毎日眺めて楽しんでいます。



三

「こどもと防災」



どうしても必需品ではないのですが、4才の息子用にと防災グッズにいれているものがあります。おもちゃのミニカーを1つ。いつのまにか増えている車のおもちゃの中から、遊ばなくなったものを1つ選んで防災用のカバンに潜ませています。防災用品の点検時にはミニカーもこっそり別のもので取り替えます。おもちゃ置き場に突然現われた昔のミニカーに、「これちっちゃい時遊んでたやつ！みつけてくれてありがとー！」と驚き喜ぶ息子。ごめんなさい、こっそり借りてました・・・。

新しいことを知り成長していくことが喜びの子どもは、常に新鮮さを求めているように見えます。自分自身もすすくと変化し続けるからこそ、その土台にいつもと同じ繰り返しの生活、いつもと同じ人たち、いつもと同じ場所がゆるぎなく存在していることがなよりの心の拠り所となっているように思います。子どもがいると休みの日はどこかへお出かけと思いがちですが、当の子どもはいつもの日常の延長線のほうがよかったりもします。公園に行って少し砂場で長く遊べたとか、今日はお昼ご飯を庭で食べたとか、小さな変化がとてもうれしい。そんな小さなことが大きな喜びになり得る子どもにとって、災害が起こって家に帰れなくなるということは、一体どれほどのダメージなのでしょう。

この防災用ミニカーはなくてもなんとかなると思います。ただ日常と違うことが起こったとき大人以上にストレスがかかるだろう子どもにとって、自分の大好きなおもちゃが手元にあるというのはとても大切なことだと思うのです。そしてできればそれは、家での安心感を思い出すものであってほしい。だから防災用ミニカーを慣れ親しんだものと定期的に交換し、その日が来ないように祈りつつ準備をしています。



クイズ" あったらいいな 一ばばあちゃんのおはなし編一

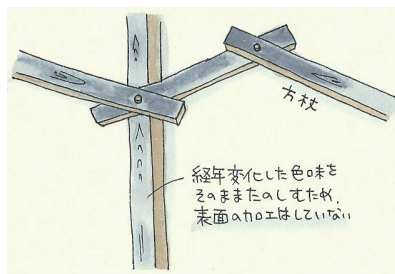
このシリーズのこんなタイトルがあったら読んでみたいという、空想の絵本が1冊まぎれています。どれでしょうか？



- ① たいへんなひるね ② はるのいちだいじ ③ だろんこおそうじ

→答えは最後のページ

ちえすなつとの店内に入って少し見上げると、灰色の方杖（*）の木材が目に入ります。これは着色をしたり古くなって変色したものではなく、木材をわざと陽の当たるところに置いておき、表面の色を天日干しによって変化させたものです。薄い灰色は2ヶ月、店内奥の濃い灰色は約1年かかって天日干しされています。最近では古民家のリノベーションなどにも使われたりと認知され始めて来ているこの木材を、一部ではグレー材とよんでいます。屋外に置かれている長い間に紫外線や雨水によって木材のやわらかい部分が自然と削り取られ、硬い部分だけが浮き上がってきます。そうすることで、木目の陰影が強調され、表情がとても豊かな木材となります。経年変化して出てくる色味を楽しむことができるグレー材は、ちえすなつとの店内でも、天井だけでなく様々な場所で重宝しています。



*方杖（ほうづえ）：
柱と梁にとりつける斜め部材

「古絵本とコーヒーのお店 ちえすなつと」は、夫婦で営む絵本屋です。この冊子は、ちえすなつとの2人が絵本のことやお店のこと、はたまた日常のささいなことまでを、手紙をだすように綴った月刊誌です。

あとがき

▶お店の内装に使用したグレー材が少し余りました。残ったグレー材は最終微調整の際に様々なところで使われました。机の脚になったり、天井から照明を吊るす棒になったり、どこに使っても不思議と店に調和するグレー材。最後に手元に残ったのはほんの30cmほど。その角材に「OPENしてます」と書いてお店の看板の上に置いてみると、とてもいい雰囲気になりました。



▶缶コーヒーも大好きです。



ちえすなつとミニレター
IGAGURI 第3号

発行者 ちえすなつと
発行日 2021年5月1日

古絵本とコーヒーのお店 ちえすなつと

OPEN 10:30-17:00

CLOSE 日・月

*定休日（日・月）以外の祝日はOPEN

〒561-0883 大阪府豊中市岡町南 1-6-13-101

阪急宝塚線「岡町駅」徒歩5分

www.chestnut2020.com



©: ちえすなつと [ちえすなつと]